

4 各教科の授業改善の視点

(1) 国語

ア 出題について

<小学校>

- ・ 基礎・基本，思考・表現の設問の数は，ほぼ例年通りで出題。
- ・ 物語文，説明文とも授業展開を意識して，話し合い活動や単元を貫く言語意識をもたせた取組の流れに応じた設問を出題。（小・中共通）
- ・ 文章と図表などを結び付けるなどして考える設問を出題。（小・中共通）

<中学校>

- ・ 基礎・基本，思考・表現の設問の数は，ほぼ例年通りで出題。ただし，大問の数は1減。
- ・ 問題量は昨年度より増。例えば物語文の設問においては，設問の文言を含めて，中1で約800字，中2で約200字増。

イ 特徴ある問題から

<小学校>

小5：③の三

指導事項：【読むことイ】登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉えること。

通過率：51.8%

調査の結果，物語の一部から言葉や文を取り上げること（事実）と，どうして以前のような親友になると考えるのか（考え）を結びつけて，一定の字数内で表現することが苦手であることがわかる。

平成29年度の全国学力・学習状況調査B問題③の三とはほぼ同じ設問であるが，その際の正答率は44.6%であった。

昨年度は，鹿児島学習定着度調査において説明文の問題で類似の問題を出題している。根拠となる叙述（文章中の言葉）を取り上げる問題の通過率は44.4%。叙述から自分の考えを表現する問題の通過率は38.0%であり，昨年度よりはやや改善傾向にある。

三 【話し合いの様子の一部】の中の「 B 」のところ
で、福永さんは、【物語の一部】の言葉を取り上げながら、「ぼく」と大介が「以前のような親友になる」と考えた理由を話しています。あなたが福永さんなら、どのような理由を話しますか。次の条件に合わせて書きましよう。

（条件）

① 〔 〕の中山さんのように、【物語の一部】から言葉や文を取り上げて書くこと。

② 取り上げた言葉や文をもとに、どうして「ぼく」と大介が以前のような親友になると考えるのかを書くこと。

③ 文末を「から。」で結び、四十字以上七十字以内にまとめて書くこと。

<中学校>

中1：4の三の3

指導事項：【読むことウ】場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。

通過率：63.5%

<p>3 あなたが宮田さんだとしたら、石山さんと松川さんの質問に対して、内でのどのように答えるか。で囲まれた宮田さんの発言を参考にして書け。（字数は問わない。）</p>	<p>三 この文章を読み終えた後に、気になる表現について意見を交流する話し合いを行った。次の「話し合いの様子」を踏まえて、あとの各問いに答えよ。</p> <p>【話し合いの様子】</p> <p>進行役 では、話し合いを始めます。文章の中で、気になった表現やその理由などを全員で出し合って、様々な表現の工夫に気付いたり、他の人の意見を聞いて、自分の考えを深めたりするのが、話し合いのゴールです。</p> <p>松川さん 誰から、どんな順番で言っていけばいいですか。</p> <p>進行役 宮田さんから順に、時計回りに発表していくのはどうでしょうか。それぞれの発表に質問があれば、質問をして確認もしていければ分かりやすくないですか。</p> <p>石山さん そうですね。</p> <p>進行役 じゃあ、宮田さん、お願いします。</p> <p>宮田さん 私の意見としては、前半は、「黒くぬれたアスファルト」や「成績が悪かった」などの表現から、暗い雰囲気を感じました。でも、後半では、それがすっかり変わっているのがいいなと思いました。</p>
---	---

調査の結果から、場面と描写を結び付けて、内容を解釈することが苦手であることが分かる。

昨年度も、本調査において類似の問題を出題している。根拠となる叙述（文章中の言葉）を取り上げる問題の通過率は69.5%であり、昨年度と大きな変化は見られない。

ウ 授業改善のポイント

<小学校>

叙述（文章中の言葉）を根拠として取り上げる問題に苦手意識をもっていることが考えられる。そこで、以下のようなことを意識して授業を行うことが重要である。

- 考えの根拠となる叙述を明確にさせる発問、板書を行う。
（板書やワークシートにも根拠となる叙述と考えを区別して板書する。）
- 考えの根拠となる叙述に線を引かせるなどして、叙述を意識させる指導を行う。
- 考えの根拠となる叙述を明らかにして、その叙述からどのように考えるのかを説明させる活動を行う。

<中学校>

- 場面の雰囲気をどのように感じるかを発問し、叙述（文章中の言葉）を根拠として理由を述べさせる活動を行う。（板書やワークシートにも根拠となる叙述と考えを区別して板書する。）
- 自分の解釈の根拠を考えたり、他の読み手の解釈と比較したりする活動を位置付ける。

(2) 社会


ア 出題について

- ・ 全学年、難易度は例年並みで、当該学年で学習する内容を、基礎的・基本的な問題と思考・表現に関する問題を約3：1の割合で出題。
- ・ 小5は、鹿児島と新潟の雨温図を比較して気候の特色を説明する問題や資料を使って日本の食料問題を説明する問題等を出題。
- ・ 中1は、写真や雨温図を基に気候の特色を説明する問題（毎年出題）や郷土の人物に関する問題（毎年出題）等を出題。
- ・ 中2は、緯度・経度を活用し、時差等を求める問題（毎年出題）や江戸時代の大名の配置や参勤交代について説明する問題等を出題。

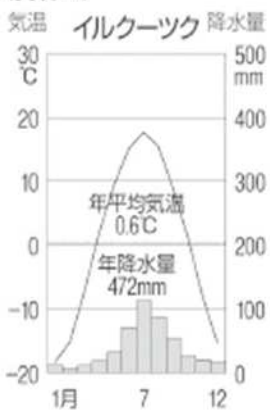
イ 特徴ある問題から【地理的分野】 中1 2

(3) 資料3中の建物は、地図中のイルクーツクで見られる住居である。資料3のような建物になっている理由を、資料4の雨温図の特徴にふれて説明せよ。

(資料3) イルクーツクの住居



(資料4) 気温 イルクーツク 降水量



項目	値
年平均気温	0.6°C
年降水量	472mm

平均通過率 47.5%

○ この問題は、中学校第1学年2学期重点課題とほぼ同一問題である。平均通過率が低い。各学校においては、同一問題にもかかわらず、平均通過率が低い現実を受け止め、指導は適切だったか、指導に工夫が必要だったのではないか振り返り、今後の指導の在り方を検討する必要がある。

※ 過去の類似問題の平均通過率

H28 地中海性気候 (平均通過率 49.5%) H30 冷帯 (平均通過率 50.2%)
H29 温帯 (平均通過率 9.5%) R元 熱帯 (平均通過率 80.1%)

○ この雨温図に関する問題は、世界各地の人々の生活と環境に関する内容で、社会的事象を人間の営みと関連付ける地理的な見方・考え方をを用いる問題である。また、諸資料から情報を効果的に収集し読み取る技能や論理的に説明する力などを必要とする良問である。

授業では、雨温図から分かる1年間の気温差、降水量の多い(少ない)月などの気候的な特徴と該当都市の緯度や地形などの地理的な条件に着目させ、気候を決定する要素は何かを考えさせることが大事である。例えば、①まず、雨温図の読み取り方を学習する時間を設定する、②次に、いくつかの都市を指定して、適切な課題を設けて行う学習に取り組ませる、③そして、既習学習を生かしてその他の雨温図の学習を行うなどの授業が考えられる。

ウ 特徴ある問題から【歴史的分野】 中2 5

(4) 資料2は、鳥取藩の参勤交代の道のりであり、資料3は、鳥取藩の参勤交代の日数と費用である。外様大名である鳥取藩はどのような場所に配置されていたか。また、参勤交代がどのような負担になっていたか。説明せよ。

(資料2) 鳥取藩の参勤交代の道のり



(資料3) 鳥取藩の参勤交代の日数と費用

鳥取藩の池田氏の参勤交代の記録によると、鳥取から702 kmはなれた江戸までは21泊22日を要し、その参勤交代の片道に要した費用は1957両(※1)であり、その内訳は、人件費43%、馬などの荷駄25%(※2)、諸品購入20%、その他12%となっている。
 (※1) その当時(1812年)の1両は現在の貨幣価値にして約6万円
 (※2) 荷駄とは馬で運送する荷物

平均通過率
61.8%

(『贈従一位池田慶徳公御伝記』から)

- この問題は、資料を読み取る問題である。無解答率が10.3%と高い。
- 参勤交代については、小学校6年生でも学習する内容である。小学校では、大名行列などの資料を活用して江戸幕府の政策を調べる学習などが行われている。
 このことを踏まえ、中学校では、小学校で学習した内容の復習を取り入れながら、今回出題された問題のように、当時の書物を活用した資料から、参勤交代に係る様々な情報を読み取る学習が効果的な一つの方法であると考えられる。
 授業においては、生徒が興味関心をもつような資料を授業の中で提示し、自分の考えを書く時間を確保するようにする。その際、書き出しの言葉を指示したり、必ず使う用語を指示したりするなど、生徒の発達段階に応じてヒントを与える。また、生徒の考えを深化させるために、他の人の考えを聞くグループ活動を取り入れるなどの工夫も大切である。

エ 授業改善のポイント【小中共通】

学習指導要領改訂により、社会的な事象そのものが学習内容である社会科においては、**社会との関わりを意識した課題解決的な学習活動**を取り入れた授業実践が期待されている。

授業では、社会的な見方・考え方を働かせ、ペア・グループ活動などを取り入れながら多面的・多角的に考察・構想し、その過程や結果を説明したり論述したりできるようにすることが期待されている。

- 生きて働く知識の習得場面と思考力・判断力・表現力等の育成場面を、授業にバランスよく取り入れる。
- 授業を工夫する。教科書をなぞるだけの授業、ワークシートの穴埋めの解説だけの授業から脱却する。「学びの羅針盤」を使って再度、授業づくりのポイントを確認する。考えさせる場面を必ず入れ、「主体的・対話的で深い学び」の授業を実践する。
- 定期的に復習する場面を取り入れる。小テスト等で重要語句などの基礎・基本の定着を図る。また、かごしま学力向上支援Webシステム上の評価問題等で思考力・表現力の育成を図る。授業を工夫して時間を見だし、復習する時間を確保する。
- 新聞記事等を活用して、タイムリーな話題を提供し、政治等に関心をもたせる。あわせて、自分たちの住んでいる郷土についても関心をもたせる工夫をする。
- ICTを積極的かつ効果的に活用する。意図的・計画的に行い、適切な場面で、適切に活用する。ICTを活用することで、例えば、地図や時差の学習では、具体的にイメージしやすく、また理解しやすくなる。
- 小・中の連携を意識して、中学校教員は、「追究の柱」を立てて問題解決的な学習を実践している小学校の授業を見ること。また、小学校教員は、履修内容が専門的になる中学校の教科書を読むこと。教科の系統、指導法の一貫性などを意識して、授業を行うことが大切である。

(3) 算数・数学

ア 出題について

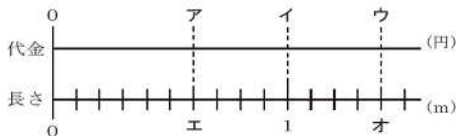
- ・ 小5においては、第5学年に移行した速さの問題、平面図形の求め方を解釈し説明する問題、二つのグラフそれぞれの変化量を読み取り、変化の様子を説明する問題等を出題。
- ・ 中学校においては、与えられた文章・図・グラフから性質や特徴を読み取り、体積や速さを求めたり、解決の過程を説明したりする問題等を出題。

イ 特徴ある問題から（小学校）

〈小5〉 2 (2) 1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができるかを問う問題

＜鹿児島学習定着度調査＞

(2) 1mあたりの値段が140円のテープを0.6m買います。このときの代金を□円として、テープの長さ^{（m）}と代金の関係を下の図に表します。
 テープ1mあたりの値段140円の「140」、買う長さ0.6mの「0.6」、0.6m分の代金□円の「□」のそれぞれの場所は、下の図のどこになりますか。
 下のア～オの中で、あてはまるものを1つずつ選び、□の中^{（円）}にその記号を書きましょう。



平均通過率 62.5%（無解答率0.9%）

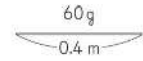
右に示した全国学力・学習状況調査の類題である。次の3点について、定着させる必要がある。

- ① 小数の乗法についての意味の理解と技能。
- ② 乗法で表される二つの数量の関係についての理解。
- ③ 小数の乗法の問題場面で二つの数量の関係を数直線に表すこと。

※ 問題場面を図や表に書き表す力は、継続した丁寧な指導で確実に身に付けさせること。

H30 全国学調 A 問題 1

0.4 mの重さが60gの針金があります。
 この針金について、次の問題に答えましょう。

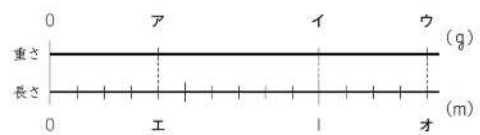


(1) 針金0.2 mの重さは何gですか。また、針金0.1 mの重さは何gですがそれぞれ答えを書きましょう。

(2) 針金1 mの重さは何gになるかを考えます。

1 mの重さを□gとして、針金の長さ^{（m）}と重さの関係を下の図に表します。
 針金0.4 mの「0.4」、0.4 mの重さ60gの「60」、1 mの重さ□gの「□」のそれぞれの場所は、下の図のどこになりますか。

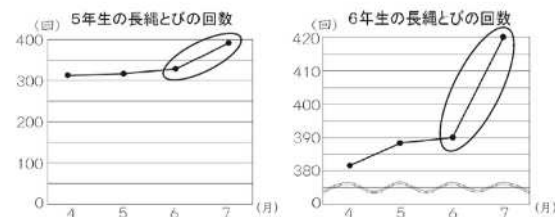
ア から オ までの中から、あてはまるものを1つずつ選んで、その記号を書きましょう。



〈小5〉 10 (3) 折れ線グラフから特徴を読み取り、説明する問題

R2 鹿児島学習定着度調査

次に、よしきさんとゆうかさんは、長縄とびに取り組んだ成果を表すために、5年生と6年生のそれぞれについて、4月から7月までの4か月間に実施した長縄とびの回数の変化の様子を折れ線グラフにまとめました。



よしきさんは、上の2つのグラフを比べて、次のように言いました。



5年生に比べて6年生のほうが、6月から7月までの線のかたむき方が急だね。
 だから、5年生に比べて6年生のほうが、6月から7月までに実施した長縄とびの回数のふえ方は大きいことが分かるね。

よしきさんの言っていることは、まちがっていないかな。



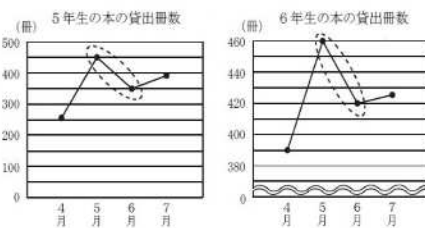
(2) ゆうかさんの言うとおりに、よしきさんの考えの下線部分は、正しくありません。その理由を、長縄とびの回数に着目して、言葉や数を使って書きましょう。

グラフの特徴を複数の観点で捉えて情報を読み取る問題は、継続して出題しており、平均通過率の状況は右上のとおりである。

折れ線グラフを用いる際は、一目盛りの大ききでグラフの見え方が変わることについて丁寧に指導するとともに、実際に類題に取り組みさせるなどして、繰り返しの指導を行う必要がある。

R1 鹿児島学習定着度調査

よしきさんは、ゆうかさんのアドバイスをもとに、5・6年生の本の貸出冊数の変化の様子を、それぞれ折れ線グラフにまとめました。



5月に比べて6月は、5年生も6年生も本の貸出冊数が減っているね。折れ線グラフの貸出冊数の変わり方に注目すると、5年生に比べて、6年生の方が大きく下がっているね。だから、6年生の方が、5月から6月までの本の貸出冊数の減り方は大きいことが分かるよ。

平均通過率 35.3%（無解答率 10.0%）

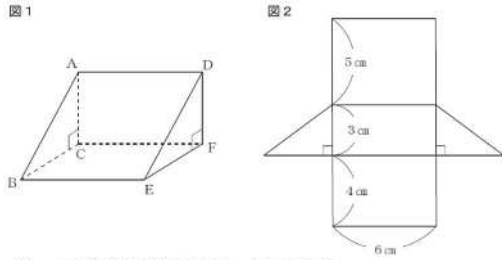
R1 39.6%

H30 34.0%

ウ 特徴ある問題から (中学校)

〈中1〉 3 3 三角柱の体積の問題

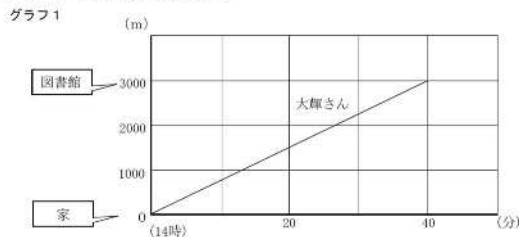
下の図1は、長方形と直角三角形でできた立体の見取図である。また、図2はこの立体の展開図である。このとき、次の1～3の各問いに答えなさい。



3 この立体の体積は何 cm^3 か求めよ。

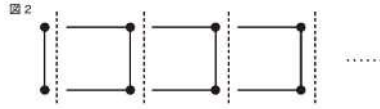
6 1 速さの問題

大輝さんは、14時に家を出発し、歩いて3000m離れた図書館に行った。下のグラフ1は、大輝さんが家を出発してから時間と家からの道のりの関係を表したものである。このとき、次の1、2の各問いに答えなさい。



1 グラフ1から、大輝さんの歩く速さは分速何mか求めよ。

5 1(2) 文字式の利用の問題



【竹ひごの本数の求め方】

図2のように、点線で分けて考えると、竹ひごの本数は、一番左の最初の1本に加えて、正方形が1個増えていくごとに3本ずつ増えていく。
したがって、正方形を n 個並べたときの竹ひごの本数を求める式は、 ① と表すことができる。

【ねん土の個数の求め方】

図2のように、点線で分けて考えると、ねん土の個数は、一番左の最初の2個に加えて、正方形が1個増えていくごとに2個ずつ増えていく。
したがって、正方形を n 個並べたときのねん土の個数を求める式は、 ② と表すことができる。

平均通過率 3 3 59.0% 基礎・基本

5 1(2) 65.1% 思考・表現

6 1 76.6% 基礎・基本

次の指導が必要である。

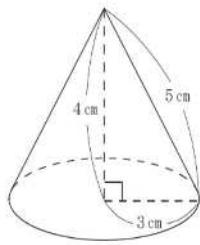
① 図にかき表したり、読み取ったりする活動。

② グラフにかき表したり、読み取ったりする活動。

※ 問題解決に当たって、実際に図やグラフをかくことの必要性を味わわせるとともに、他者の説明を理解する活動を大切にさせる。

〈中2〉 4 2 円錐の体積の問題

2 底面の半径が3cm、高さ4cm、母線の長さが5cmの円錐の体積を求めよ。ただし、円周率は π とする。

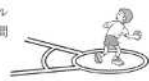


平均通過率 54.5% (無解答率6.7%) 40.4% (無解答率13.2%)

上に示した円錐の体積、最頻値の問題だけでなく、分配法則、等式の変形、方程式の立式、比例の立式、反比例のグラフ、多角形の内角、三角形の合同条件、累積度数など、基本的な問題の定着が図れていない。これらを確実に定着させるとともに、理由を説明したり、新たな事柄を見だし説明したりする問題にも並行して取り組ませていく必要がある。

8 2 最頻値の問題

下の表は、A中学校とB中学校の野球部の生徒のハンドボール投げの記録をまとめたものである。このとき、次の1～4の各問いに答えなさい。



A中学校とB中学校の野球部のハンドボール投げの記録

距離 (m)	A中学校		B中学校	
	度数(人)	累積度数(人)	度数(人)	累積度数(人)
以上～未満				
16～20	1	1	2	2
20～24	3	4	4	6
24～28	2	□	3	9
28～32	6	12	8	17
32～36	2	14	2	19
36～40	1	15	1	20
計	15		20	

2 上のA中学校とB中学校の野球部のハンドボール投げの記録から求められる最頻値は、どちらの中学校も同じである。その値を求めよ。

エ 授業改善のポイント

【小・中共通】

例えば、左のページで示したグラフを読み取り説明する問題など、継続して出題されているにもかかわらず、課題のある状況が続いている問題がある。解答方法まで含めて指導を徹底する必要がある。

【小学校】

小学校段階では、更なる基礎・基本の定着が必要であることから、式、図、表、グラフを活用させながら理解させていく必要がある。さらに、十分な演習と定期的な学び直しをさせて知識・技能の定着とその持続を図るようにする。

【中学校】

テキストや説明からの理解と、練習問題等による具体や実践からの理解を有機的に関連させながら、深い理解と確かな定着を図る必要がある。また、一人が説明して完結させる活動だけでなく、他者の説明の一部がどのようなことを意味しているのか考えさせるなどして、考えや意図、方法を互いに確認し合いながら、深め合う学びが実現されるよう促す必要がある。

(4) 理科

ア 出題について

- ・ 全学年、基礎的・基本的な問題を中心に、例年並みの「思考・表現」に関する問題も出題。
- ・ 小5は、大問6で食塩が溶ける前と後の重さの違いについて、予想したことに対する実験結果の見通しを適切に考察すること等の「思考・表現」に関する問題を出題。
- ・ 中1は、大問5で小学校学習内容の月の形から太陽の位置を推測する問題や、大問8で再結晶の様子を粒子モデルで表現する「思考・表現」に関する問題を出題。
- ・ 中2は、過去に通過率の低かった中1の内容から、大問3で地層に関する問題、大問4で圧力の求め方に関する問題、大問5、6で化学変化の質量変化やモデル化の問題を出題。

イ 特徴ある問題から (小学校) 小5 6

6 太郎さんたちは、水にとけて見えなくなった食塩について調べることにしました。次の各問いに答えましょう。

(1) 太郎さんたちの班は、図1のように20gの食塩を水に入れる前と後の重さを比べることにしました。太郎さんの予想が正しければ、どのような実験結果になると考えられるでしょうか。最も適切なものを、下のア～ウから1つ選び、記号を に書きましょう。

図1

【食塩を水に入れる前】 193g

【食塩を水に入れた後】 太郎さんの予想 g

太郎： 食塩を入れた水をかきまぜると見えなくなったから、食塩の重さはなくなったと思うよ。

正子： 全部はなくなっていないと思うよ。少しは、水の中に食塩の重さが残っていると思うな。

次郎： 食塩は見えないけれど、重さは、全部、水の中にあるはずだよ。

ア 173g
イ 193g
ウ 213g

太郎さんの予想

平均通過率 51.2%

◇ ここに注意しましょう！
教師が、正しい予想しか取り上げないと、児童の豊かな発想や次の課題発見や解決につながる視点を失う可能性もある。

※ なぜ、そう考えたのかなど、自分と他者の意見を比較しながら考えを深める姿勢を意図的・計画的に養うことが大切である。
(「同じです。いいと思います。」で終わらせない。)

中1 8 太郎さんと正子さんは、ミョウバンの結晶をつくる実験を行いました。次の各問いに答えなさい。

(3) 次の図3は、【実験】①のミョウバンの水溶液をモデルで表したものである。【実験】②のように、水溶液の温度を20℃まで下げたときのミョウバンの水溶液のモデルはどれか。最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。
 なお、ミョウバンの溶解度は20℃で12g、40℃で24gとして考える。

平均通過率
69.1%

図3

※ 水にとけているミョウバンを○で表す。
 ※ 結晶として出てきたミョウバンを●で表す。

中2 7 図1は、空気が上昇して、雲ができるようすをモデルで表したものです。次の各問いに答えなさい。

(2) 図2は、(1)の説明文をもとにして示した上昇する空気中のようすのモデル図である。Aの部分にあてはまるモデルとして、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。ただし、円中の水蒸気が状態変化するものとして考えること。

○：水蒸気のモデル ●：水のモデル ◇：水のモデル

平均通過率
80.8%

※ 閉鎖系における状態変化では、質量が保存されること、そこから、モデルの数は変化しないことを確実に知識として定着させ、知識を活用してモデルで表すことができるよう、ICT等を活用し、モデルの操作を生徒自身にさせることが必要である。
 計算問題との関連も意識的に取り上げること。

※ 中2の飽和水蒸気量を学習する際に、中1の溶解度の学習を振り返りとして活用することは、共通性を見出す力を高めることにつながる。

エ 授業改善のポイント【小中共通】

- 系統性（単元間のつながり，小・中の連携）を意識した指導の充実を図る。そのためには，教師自ら，他校種，他学年の鹿児島学習定着度調査の問題を解いてみる事が大切である。（小5：大問2，3，5，7，中1：大問5，7，中2：大問3，4は，前年度以前の指導内容）
- 単元での学習終了後，学習した内容やそれに関する事象に興味・関心を持続，向上させる工夫を行う。（授業開始前や終了後の情報提供や児童生徒への問い掛けを意図的，計画的に行う。）
- 小学校では「問題解決の過程」，中学校では「探究の過程」を踏まえた授業を展開する。特に，自分の考えを再構築する過程を大切にす。
- 地学領域の柱状図から地層の傾きを捉えるなどの空間概念は，具体物やモデルを活用しつつ，ICTも効果的に活用することで定着を図るようにする。
- 中2の示準化石を問う問題は無解答率が10.8%と高い数値である。小中を問わず，前年度の学習内容だから出来なくても仕方ないではなく，どうやって定着させるかを徹底して考え，指導を工夫する必要がある。

(5) 英語

【読むこと】

ア 出題について

- ・ まとまりのある英文を正確に理解した上で、概要や要点を捉える問題を出題。

イ 特徴ある問題から

中2大問⁷ 230語程度の英文の概要(文章構成)と要点(スピーチの主題)を把握する問題

<p>7 次は、中学3年生のユウジ (Yuji) が2年生に向けてスピーチを行ったときの原稿です。これを読んで(1)、(2)の問いに答えなさい。</p>	
<p>Now our world has the coronavirus*. It is a difficult problem, but I think . I'm going to talk about them.</p> <p>First, <u>we must use the Internet to live</u>. Some months ago, I used the Internet only for playing games, but now I use it when I talk with my friends and do my homework. My father started working with his computer at home, and my mother buys things on the Internet.</p> <p>Second, <u>doing good things is always good</u>. When I was a child, my mother always said, "Wash your hands! It's good for your health*." I sometimes didn't wash my hands even before lunch. Now I wash my hands after every class at school because I know it's good for our health.</p> <p>The third is that <u>we can find new ideas with our friends</u>. I was on the basketball team. Last spring we didn't have any games. I was very sad, but one day in fall, my friend Kota said to me, "You couldn't play basketball with other teams, and my soccer team didn't have any games. Now I have a good idea. We can play basketball and soccer after lunch." After that, we played them together. It was a lot of fun. Now we sometimes enjoy other sports.</p> <p>The coronavirus changed* our world, but <u>you can learn a lot from many things around you</u>. So let's enjoy our new world.</p>	<p>(1) このスピーチの内容を説明しているものとして最も適切なものを下のア～ウの中から一つ選び、その記号を答えよ。通過率 49.8%</p> <p>ア 自分が経験したことを、時間の流れに沿って紹介している。</p> <p>① 自分が考えたことを、例を挙げながら述べている。</p> <p>ウ 自分の意見の正しさを、理由を挙げながら主張している。</p> <p>【つまずきの見られるポイント】 本文中の.....線部が「話者の考え」であり、各段落でその考えに至った具体例が述べられており、アの「時間の流れに沿って」、ウの「意見の正しさを、理由を挙げながら主張」の部分が合わないことが読み取れていない。</p> <p>(2) に入る英語として最も適切なものを下のア～エの中から一つ選び、その記号を書け。</p> <p>ア we must use the Internet to live 通過率 40.1%</p> <p>イ doing good things is always good</p> <p>ウ we can find new ideas with our friends</p> <p>② you can learn a lot from many things around you</p> <p>【つまずきの見られるポイント】 ① 文章が、最初と最後の段落で結論を述べる構成になっている。 ② ア～ウが話者の考えを列挙する段落で、エが最後の結論の段落で用いられている。 上記①、②に気付くことができなかったため、エが最も適切であると判断できていない。</p>
<p>考えられる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平素から初見の英文を読ませていない。 ● 英文の読み方の指導が徹底されていない。 	

ウ 授業改善のポイント

- 英文を意味のまとまりごとに区切りながら読むことができるようにする。
- 英語の語順のまま(日本語の語順に直さずに)理解することに慣れさせる。
- 時間を決めて、速く正確に読ませる(1分間で150語の速さを目安とする)。
- 代名詞や指示語、接続詞の前後を正しく捉えさせる。
- 英文を読んで、概要や要点を把握する活動を継続的に行う。
- 読むことの活動を話したり書いたりする活動につなぐために、音読の後に、文中のキーワードを基に本文の内容を再現するリテリングなどの活動を行う。
- リテリングの延長として、感想を付け加えさせるなどして数文の英語でまとめさせる。
- 年間を通じて、まとまりのある初見の英文に触れさせる。

※ 初見の英語に触れさせる工夫としては、教科書以外の素材を取り寄せたり、英文を自作したり、演習問題を活用する方法が挙げられます。また、教科書本文を生かすことも考えられます。その場合、新出の語句や表現は前時までには指導を終え、次時で教科書本文を使った内容理解や言語活動を扱うとよいでしょう。

【書くこと】

ア 出題について

- ・ 基礎的・基本的な文法事項を文脈の中で正しく使う問題を出題。
- ・ 与えられたテーマについて、文と文のつながりなどに注意して英文を書く問題を出題。

イ 特徴ある問題から

中2大問9 中2で学習する基本文の語順を答える問題

中1大問10 対話の場面を理解し、英文を完成させるために適切な語を答える問題

中2大問11 外国に住む知人に勧めたい場所を紹介する英文を書く問題

<p>中2 9 次の(1)～(4)のそれぞれが自然な対話となるように、□の部分に〔 〕内の語を並べかえて英文を完成させなさい。</p> <p>(1) 教室にて (※〔 〕は省略)</p> <p>A: Is this your bag? B: No. <u>It is not mine</u>. It's my brother's.</p> <p>通過率 75.3% (R1 同一 70.9%)</p> <p>(2) 体育館にて</p> <p>A: I like basketball. What <u>color do you like</u>? B: I like tennis.</p> <p>通過率 68.8% (R1 ほぼ同一 (What color do you like?) 65.6%)</p> <p>(3) 休み時間に</p> <p>A: The next class is English. I can't find my book! Can you <u>show me your book</u>? B: Sure.</p> <p>通過率 64.0% (R1 ほぼ同一 (Can you tell me your phone number?) 56.2%)</p> <p>(4) 登校中に</p> <p>A: I saw you near the station yesterday. Where did you go? B: I went to a new <u>restaurant to have dinner</u> with my family.</p> <p>通過率 35.9% (R1 類似 (Kyoto has many places to visit.) 42.4%)</p> <p>【つまずきの見られるポイント】 基本的な英語の語順について、誤りに気付くことができない。</p>	<p>中1 10 次は、インドから鹿児島に来た中学生のラフル (Rahul) とナオミ (Naomi) との対話です。次の(1), (2)の問いに答えなさい。</p> <p>Rahul: Look at this picture, Naomi. This is my favorite* food. Naomi: Is it curry? Rahul: Yes. Many people* like curry in India. My father (cooks / makes) curry every Sunday. I like his curry. Naomi: Oh, does he? My father doesn't make it.</p> <p>通過率 30.1% (R1 (plays) 42.7%)</p> <p>考えられる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 既習の表現を繰り返し聞かせたり、読ませたりしていない。 ● 即興的に英語を話させていない。 ● 発話したことを正しく書いたり、文字を正しく音声化したりする力を身に付けさせていない。 ● 過去の調査で明らかになった課題を解決しないまま調査を受けさせている。
--	--

<p>中2 11 あなたは、外国に住む知人からあなたの住んでいる所を訪れるなら、どこを訪れたらよいか尋ねられました。外国の知人にすすめたい場所の一つを選び、外国の知人がその場所をよいと思ってくれるように説明しなさい。</p> <p>通過率【内容の適切さ】 49.4% 【正確さ】 20.1% 無答率 16.9%</p> <p>【つまずきの見られるポイント】 身近な話題について複数の文を書く力が身に付いていない。</p>	<p>考えられる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 与えられたテーマについて文章で表現することに慣れさせていない。 ● 大問4「聞いた後に書く問題」、大問8「読んだ後に書く問題」の無解答率もそれぞれ 24.7%, 22.4%と極めて高く、書くことへの意欲を高める指導が十分に行われていないことが伺える。
--	--

ウ 授業改善のポイント

- 授業中における教師の意図的な英語使用により生徒が英語に触れる機会を増やす。
- 言語活動を中心とした授業展開に努め、生徒による英語の発話量を増やす。特に、即興的に英語で話す機会を継続的に設定する。
- 表現活動を下支えする活動として、音読指導を徹底する。その際、正しく音声化させることにより、正しく書く力を養うようにする。
- 「三単現のs」などの定着に時間を要する事項は、教師自身がモデルを示すとともに、生徒が誤った場合は、言い直したものを聞かせたり、正しい言い方でもう一度言わせたりする。
- 語句や表現の導入や言語活動に当たっては、小学校の外国語学習を踏まえる。
- 過去の調査において課題となっている問題については、類題も含めて繰り返し取り組ませる。
- 表現内容の正確さだけでなく、表現した内容や量を重視する評価も行う。

大問4, 8は、全国学力・学習状況調査問題を参考に、昨年度から出題しています。内容理解の問題であることから、軽微な文法的な誤りは許容するなど、採点基準を大問11とは別に設定しています。無解答率が高かった学校においては、①昨年度の問題を分析し、生徒が英語で聞いたり読んだりしたことについて英語で話したり書いたりする授業を継続的に行ってきたか、②定期テスト等で類似問題を出題するなどしていたかを振り返り、今後、同様の問題を生徒が初めて見て戸惑うことがないよう指導する必要があります。